

bypass grafting: results 10 to 12 years after surgery in 500 patints. Circulation 68 (Suppl II): II-200, 1983

<Summary>

We evaluated an improvement of myocardial ischemia in a jeopardized area with a remote ACB graft (ACBG), using stress myocardial scintigraphy (S-SG). Ninety patients (pts) who underwent ACBG and S-SG before and after ACBG were entered in this study. The patients were divided into four groups; group (Gr) A consisted of 35 pts with complete revascularization and complete patency, Gr B of 26 pts with imcomplete revascularization with complete patency, Gr C of 26 pts with partially occluded ACBG and Gr D of 3 pts with complete occlusion of ACBG. Gr B and C were considered to have jeopardized myocardium with a

remote ACBG. Three methods were used for quantitative analysis of S-SG; ischemic score (IS) which is a sum of four graded perfusion score in 18 ROIs, wash-out rate (%WR) and relative thallium activity of a ROI (%D).

IS was improved in Gr A, B and C, and there was no significant differences in the extent of improvement among these three groups. %WR in the jeopardized area in Gr B and C was increased from 26% to 42% and 25% to 39%, and %D from 68% to 78% and 71% to 79%, respectively, indicating an improvement of ischemia in the region. In Gr D, there were no significant changes in IS, %WR and %D. Myocardial ischemia could still be detected in 51% of pts in Gr B, C and D, while chest pain and significant ST depression was seen in only 38% and 27%, respectively. We conclude that ischemia in jeopardized myocardium improves by a remote ACBG.

「引用」についての豆知識

「引用」の範囲を超えて他人の著作物を、自身の著作物へ取り込む場合(“転載”)には相手方(著作権者・出版社)の許諾が要ります。(許諾の条件として著作権使用料を請求される場合もあります) 但し、「引用」の条件を満たして利用する場合は自由に利用できます。

1. 「引用」の条件

- 1) その著作物が既に公表されていること。
- 2) 執筆上(自説の説明・展開, 学説の批評などのため)その文章, 図表を取り込み使用する**必然性**がなければならないこと。
- 3) 引用しようとしている文章の長さや, 図, 表の数・量が客観的にみて**正当な範囲**にあること。
- 4) 原則として, 改変を加えず, **原形を保持**すること。(改変使用の場合は, その旨の表示を必要とする)
- 5) 原著者の名誉や声望を害したり, 原著者の意図に反した使用法をしないこと。(例えば, 原著者が既に訂正・補足した学説を, ことさらに訂正・補足以前のかたちのまま引用し, あるいは引用して批評するなど)
- 6) 引用された文章, 図表などがそれと判るよう明示すること。
- 7) 出所(出典)を引用個所に近接して明示すること。

2. 改変使用について

- 1) 原著者の意を害さない範囲で内容を要約しての使用, あるいは, 外国語を日本語に訳しての使用は「引用」として認められている。この場合は「出所の明示」に加えて, さらに[…より改変(あるいは翻訳)]などの“ことわり”を入れることが必要となる。
- 2) 二つ以上の著作物を使用しそれを複合利用する場合は, 出所の明示に加えて[…と…とより複合]などと, その旨付記する。
- 3) 著しい改変を加え, もはや「引用」とは認められない図表などの場合, それを新しい原図(表)とするか否かは, そこに盛られる表現上の **creativity** の問題であり, その判断は著者自身の学問的良心による。

「引用」かどうか疑わしい場合(特に書籍から利用する際には, まず原著の出版社に連絡されることをおすすめします。「出版権」設定に伴い出版社も複製の権利を所有しておりますし, 著者が「著作権」の運用を出版社に委託している場合が通例となっております。

(上記は日本医書出版協会 発行の『著作権の知識一編集・執筆のために』より抜粋。発行所: 電話 03-818-0160)

編集室